



タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3559		
科目名	海外安全対策		
担当教員	河本 志朗		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	金 3		
講義室	1205	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ D P コード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-G〔状況把握力・判断力〕自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C R コード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1倫理的思考・社会認識－20% E1学識と専門技能－50% G1状況把握－20% I1理解・分析と読解－10%		
教員の実務経験	担当教員は、山口県警察に21年間勤務し、その間3年間外務省に出向して在外公館の領事として、在留邦人及び在留企業、邦人旅行者などの安全対策に取り組みました。その間に、邦人の犯罪被害、傷病、列車事故、大規模テロ事件など多くの邦人援護活動に従事しました。1994年からは警察庁警備局において、1997年からは民間研究機関において海外安全対策の研究・啓発活動に取り組み、在留邦人及び企業を対象としたセミナーを企画・実施しました。授業においては、海外における脅威の現状、情報収集と分析の意義と重要性、外務省における取組の現状と課題、在外公館における実際の援護活動など、実務経験を踏まえて講義を行います。（第3回・第5回・第6回・第11回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	現代社会では、日本の企業や個人が海外に幅広く進出しています。世界各地で戦争や紛争、またはテロリズムや犯罪に巻き込まれる可能性のある企業は国際的な企業活動における危機管理が求められ、留学や海外旅行などにおいても個人レベルで危機管理が求められています。これらの海外安全対策について、外務省や日本大使館などの在外公館は在外邦人に対して安全確保のための様々な情報を提供していますが、外務省や警察などの機関が、邦人保護のためのどのような活動を行っているのか、また企業はどのように取り組んでいるのかを考察することで、海外安全対策に関する理解を深めることを目標としています。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 海外渡航者、企業の海外進出、邦人援護、在外公館		
授業の趣旨	■副題 海外安全対策について国、企業、個人による取組の在り方を学び、ますます国際化の進展が予想される時代にあって、自らの安全だけでなく海外で安心して活躍できる組織作りのできる社会人を目指す		

	指しましょう。 ■授業の目的 在留邦人数や海外渡航者が増加する中、多くの邦人が海外で事件事故に遭遇している現状を確認し、旅行者や企業の駐在員など海外にいる日本人や日本企業の権益の安全確保に向けた、外務省、警察庁など政府における取組、海外進出企業の本社、旅行業者、その他の団体における取組、そして海外で活動する在外公館、企業の現地拠点、日本人会や商工会議所など邦人団体による取組を概観し、実際に邦人が被害に遭った事件を具体的に挙げて、政府、企業、現地の関係者による取組の在り方を検討し、課題を見つけ出し、今後の取組の在り方について考察する能力を身につけることが目的です。 ■授業のポイント 日本は世界でも例外的に安全な国であり国民にとって幸福である反面、様々なリスクのある海外に渡航する場合には警戒心の薄さなど不利に働くことがあります。そうした海外の日本人や日本の組織の安全を確保するために、国や企業が行っている取組について、担当教員の経験も踏まえて具体的に検討しながら、その現状と課題を概観するとともに課題解決の方法について考察していきます。						
総合到達目標	■海外における日本人や日本の組織の安全対策の必要性を説明することができる。 ・治安情勢や疾病などを取り上げて日本と諸外国を比較することにより日本が例外的に安全であることに気づくことができる。(第2回～第5回) ・複数の事例について考察することにより、日本人が海外外安全対策を強化すべきことに気づき、それを説明することができる。(第2回～第5回) ■海外安全対策に向けた、国内の政府や海外進出企業、海外の在外公館、企業の現地拠点、邦人団体などによる取組の現状と課題について概要を説明できる。 ・外務省や在外公館など政府機関による海外安全の取組を概観し、その概要を説明することができる。(第6回、第11回、第13回) ・海外進出企業自身やコンサルティング企業における海外安全対策の取組と具体的な業務を概観することにより、その概要を説明することができる。(第7回～第10回) ■海外安全対策の取組における課題を抽出して、今後の取組の在り方について考察することができる。 ・海外で発生したテロ事件に関する事例研究を行い、政府及び関係企業の取組を分析して課題を発見し、改善策を考察することができる。(第12回～第13回) ・企業による海外安全の取組を概観したうえで、効果的な取組を阻害する課題を発見し、その改善に向けた取組について考察することができる。(第7回、第12回)						
成績評価方法	次の方法により成績を評価しますが、いずれの方法についても提出方法は授業において指示します。 ■レポート1回 (50%) (評価の観点) 海外安全対策の必要性、個人の意識改革の必要性、官民の様々な組織における取組の現状などに関する専門的知識の修得の程度と、それらを踏まえて具体的な課題の解決にむけて自ら考えて答えを導き出し、自らの言葉で表現できる力を修得しているかについて評価します。 (フィードバックの方法) 授業の時間中にレポートの着眼点について解説します。 ■小テスト3回 (30%) (評価の観点) 海外安全対策の必要性が理解できているか、海外安全の取組に関する専門的知識が修得できているか、習得した専門的知識を海外安全を進めるうえでの課題の解決に向けて応用できるか、などについて評価します。 (フィードバック) 授業時間中に解説します。 ■リアクションペーパー4回 (20%) (評価のポイント) 授業の内容や進行についての意見、海外安全対策に対する意識の変化、課題解決に向けた意見などを自分の言葉で表現できているかを評価します。 (フィードバック) 授業時間中に解説します。						
履修条件	特にありません。						
履修上の注意点	授業中は、私語など他の学生の学修の妨げになる行為をしないこと。そうした行為があった場合には注意し、改善しない場合は退席を促すことがあります。						
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の全体の構成、授業の目的と進め方、統合到達目標、成績の評価方法について理解できるようになる。 ③予習 (60分) シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習 (60分) 授業を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。</td></tr><tr><td>2</td><td>①授業テーマ 在留邦人及び海外渡航者の現状とその援護状況 ②授業概要 企業関係者など、在留邦人や海外渡航者の現状、海外において邦人が犯罪被害や事件事故に遭遇して在外公館から援護を受けている状況について理解し、説明できるようになる (E1、I3)。</td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の全体の構成、授業の目的と進め方、統合到達目標、成績の評価方法について理解できるようになる。 ③予習 (60分) シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習 (60分) 授業を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。	2	①授業テーマ 在留邦人及び海外渡航者の現状とその援護状況 ②授業概要 企業関係者など、在留邦人や海外渡航者の現状、海外において邦人が犯罪被害や事件事故に遭遇して在外公館から援護を受けている状況について理解し、説明できるようになる (E1、I3)。
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の全体の構成、授業の目的と進め方、統合到達目標、成績の評価方法について理解できるようになる。 ③予習 (60分) シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習 (60分) 授業を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。						
2	①授業テーマ 在留邦人及び海外渡航者の現状とその援護状況 ②授業概要 企業関係者など、在留邦人や海外渡航者の現状、海外において邦人が犯罪被害や事件事故に遭遇して在外公館から援護を受けている状況について理解し、説明できるようになる (E1、I3)。						

	③予習（180分）外務省のサイトに掲載されている「海外邦人援護統計2019年版」（https://www.anzen.mofa.go.jp/anzen_info/pdf/2019.pdf）に目を通して、海外で日本人がどのようなトラブルに遭っているかを把握しておく。 ④復習（120分）最近日本人が海外で様々な被害に遭った事例にはどんなものがあるか、図書館のサイトの新聞記事検索を利用して調べてみる。
3	①授業テーマ 海外における脅威の現状 ②授業概要 海外における脅威には、犯罪、事故、疾病、災害など日本と共通のもの、暴動、テロ、クーデター、武力紛争など日本では発生の可能性の低いものがあることやそれぞれの特質について理解し説明できるようになる（E1、C1）。担当教員の在外公館勤務の実務経験を踏まえて、海外において日本人が直面する脅威について解説します。 ③予習（120分）外務省のサイトに掲載されている「海外安全ホームページ」（https://www.anzen.mofa.go.jp/）の海外安全情報を閲覧して、海外のどの地域にどのような脅威や危険があるのかを調べておく。 ④復習（120分）「海外安全ホームページ」に紹介されている海外の犯罪情勢を閲覧して、日本の犯罪と外国の犯罪との違いは何かについて確認しておく。
4	①授業テーマ 情報収集と分析① ②授業概要 海外における在留邦人や関連施設などに対する脅威を評価し、脅威に応じた対策を立案するためには、情報収集と分析が不可欠であること、また情報収集の方法や留意点について理解し説明できるようになる（E1、I3）。 ③予習（120分）外務省の「海外安全ホームページ」から、国を一つ選んでその国の「安全対策基礎データ」を読んで治安情勢について調べておく。 ④復習（120分）外務省の「海外安全ホームページ」から、複数の国を選んで、国による治安情勢の違いを確認する。
5	①授業テーマ 情報収集と分析② ②授業概要 海外における在留邦人や関連施設などに対する脅威を評価し、脅威に応じた対策を立案するためには、情報収集と分析が不可欠であること、また情報収集の方法や留意点について理解し説明できるようになる（E1、I3）。担当教員の在外公館勤務の実務経験を踏まえて、海外安全対策のための情報収集・分析の在り方について解説します。 ③予習（120分）外務省の「海外安全ホームページ」で「たびレジ」とは何か、どのような機能があるかを把握しておく。アフリカ地域にある日本の大使館の一つ選んでそのホームページに掲載されている安全情報を読んでおく。 ④復習（120分）「思い込み」「誤報」のキーワードでネット検索し、思い込みにより解釈を誤った過去の事例について調べてみる。
6	①授業テーマ 政府による取組 ②授業概要 外務省を中心とした政府関係機関による、情報収集、情報分析、情報発信、援護活動など邦人の海外安全対策に向けた取組の概要について理解し概説できるようになる（E1、C1）。担当教員の在外公館勤務の実務経験を踏まえて、外務省による海外安全対策の取組の現状について解説します。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。 ③予習（120分）「令和2年版外交青書」の第4章第2節「海外における日本人への支援」（https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/2020/pdf/pdfs/4_2.pdf）をよく読んで、外務省による海外安全の取組について把握しておく。 ④復習（120分）「海外安全対策連絡協議会」をネットで検索し、各国における開催状況や内容をみておく。
7	①授業テーマ 海外進出企業における取組の現状 ②授業概要 海外に進出している日本企業が行っている、海外の拠点や駐在員、出張者など従業員の安全を確保するための取組の背景と現状について概要を理解し概説できるようになる（E1、G1）。 ③予習（120分）図書館のサイトの新聞検索を利用して、過去に企業が海外で被害に遭ったテロ事件にはどのようなものがあるか調べておく。 ④復習（120分）企業における海外安全対策担当者の立場から、取組の課題と解決方法について考えてみる。
8	①授業テーマ コンサルティング企業の役割① ②授業概要 企業などによる海外安全対策の取組を、ビジネスとして支援する民間のコンサルティング企業について、その具体的な業務内容と企業による活用の現状について概要を理解し概説できるようになる（E1、G1）。 ③予習（120分）海外安全コンサルティング企業をいくつか選んで業務の内容を比較しておく。 ④復習（120分）コンサルティング企業を活用する際にどんな点に留意すべきか、またその理由は何かを考える。
9	①授業テーマ コンサルティング企業の役割② ②授業概要 企業などによる海外安全対策の取組を、ビジネスとして支援する民間のコンサルティング企業の具体的な業務内容について、コンサルティング企業の関係者から実際の業

	務内容について説明を受け、その概要について概説できるようになる（E1、C1）。 ③予習（120分）前回の授業を復習し、海外安全コンサルティング企業の業務内容や活用する場合の留意点をよく確認しておく。 ④復習（120分）授業の内容について復習し、日本企業による海外安全対策の取組にどのような課題があるのかについて、またその課題の解決方法について考えてみる。
10	①授業テーマ 各種団体における取組 ②授業概要 政府や民間コンサルタント以外の各種団体の中にも、海外安全対策の取組を支援しているものについてその活動の概要を理解し概説できるようになる（E1）。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。 ③予習（120分）一般社団法人日本在外企業協会のホームページを閲覧して、同協会がどのような取組をしているか確かめておく。 ④復習（120分）政府や企業の取組と、一般社団法人日本在外企業協会の取組とはどのような関係にあるのか考えてみる。
11	①授業テーマ 在外公館の取組 ②授業概要 各国にある日本の大使館や総領事館による、海外安全対策のための情報発信や邦人援護の取組について理解し説明できるようになる（E1、C1）。担当教員の在外公館勤務の実務経験を踏まえて、在外公館が行う邦人援護について具体的に解説します。 ③予習（120分）日本の大使館または総領事館をいくつか選んで、そこから発信されている安全情報を比較し、地域による違いを調べておく。 ④復習（120分）在留届と「たびレジ」の違いはどこにあるのかを確認し、在留届の運用における課題とその課題の解決方法を考える。
12	①授業テーマ 事例研究① （内容）2013年にアルジェリアで発生した武装集団による天然ガスプラント襲撃により邦人が犠牲となった事件を取り上げて、政府や企業の対応の概要を理解し、取り組むべき課題について考察できるようになる（E1、I3）。 ③予習（120分）アルジェリア人質事件について、図書館のサイトの新聞記事検索などで事件の概要を調べておく。 ④復習（120分）アルジェリア人質事件において、企業の取組のどこに課題があったのか、その課題を解決するための本社と現地拠点の役割はどうあるべきかを考える。
13	①授業テーマ 事例研究② ②授業概要 2013年にアルジェリアで発生した武装集団による天然ガスプラント襲撃により邦人が犠牲となった事件を取り上げて、政府や企業の対応の概要を理解し、取り組むべき課題について考察できるようになる（E1、I3）。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。レポートの課題について提示し、着眼点について解説します。 ③予習（120分）「在アルジェリア邦人に対するテロ事件の対応に関する検証委員会検証報告書」 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/alg_terotaiou/kensahoukokusho20130228.pdf をよく読んで、政府の取組のどこに課題があったのか調べておく（E1、I3）。 ④復習（120分）アルジェリア人質事件を受けて政府の邦人支援の取組がどう変わったのかを調べる。
14	①授業テーマ 大学と海外安全対策 ②授業概要 海外留学や短期研修を実施する大学として求められる海外安全対策とは何かについて概要を理解し概説できるようになるとともに、自ら対策を考えることができるようになる（E1、C1）。 ③予習（120分）図書館のサイトの記事検索などを利用して、過去に海外留学や短期研修中の学生が被害に遭った事件にはどのようなものがあるか調べておく。 ④復習（120分）自分が海外留学することを想定して、大学として自分としてどのような準備をしておくべきか、緊急事態が発生した場合どのように対処すべきか、必要な取組について考える。
15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 これまで14回の授業を振り返り、海外安全対策の取組における主な課題を抽出し、今後の取組の在り方について考察することができるようになる（C1、G1）。 ③予習（120分）これまでのすべての授業を振り返って、国、企業、個人が海外安全対策として取り組むべきことと課題を抽出し、今後の取組の在り方を考える。 ④復習（180分）自分の将来目指す進路において、職場としてあるいは個人として海外安全対策にどのように取り組むべきか、海外安全担当者の立場で具体的に考える。
関連科目	国際テロリズム論 RMGT3558、テロ対策論 RMGT3528、セキュリティ論 RMGT3523、事業継続論 RMGT3351、国際協力論 RMGT3560などと密接に関連しています。
教科書	特にありません。毎回、レジュメ及び資料を配布します。
参考書・参考URL	一般社団法人日本在外企業協会『海外安全・危機管理 標準テキスト』（日本在外企業協会海外安全センター、2008年）

	加藤晃/大越修『テロ・誘拐・脅迫海外リスクの実態と対策』（同文館出版、2015年） 小川和久『危機管理の死角－狙われる企業、安全な企業』（東洋経済新報社、2015年） 菅原出・ニルスビルト『海外進出企業の安全対策ガイド』（並木書房、2014年）
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日5時限 それ以外の時間についてはメールにて事前にアポイントを取れば対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%；パブリックセキュリティ30%；グローバルセキュリティ40%；情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学90%；法学10%

